

キヌヤサエンドウ育成系統の特性 —「SM-03」が有望—

1. はじめに

本県のキヌヤサエンドウの主要品種は「美笹」で、産地では2莢付きの果房（アベック莢）収穫を行っています。しかし、「美笹」は果梗に小包（ハカマ）が発生しやすく、出荷時にこれを除去する必要があります。このため、当センターでは生産現場からの要望が強い、小包発生が少なく多収品種の育成に取り組んでいます。今回は、その中から有望と思われる系統について特性を紹介します。

2. 試験方法

育成3系統と対照品種「美笹」を供試し、2008年9月24日にガラス温室に播種しました。栽植密度はベッド幅90cm、株間20cm、1条植え、1穴5粒播種とし、1本仕立てで栽培しました。また、冬季は最低気温5℃で管理しました。

3. 育成系統の特性

(1) 開花始めは、「SM-03」が10月24日で最も早く、次いで「MD0305」および「MA0301」、「美笹」の順でした。また、収穫始めは、「MD0305」が11月7日で最も早く、次いで「SM-03」および「MA0301」、「美笹」の順でした（データ省略）。

(2) 莢の形状や色などの特性は、3系統とも「美笹」とほぼ同程度でした（データ省略）。

(3) 総収量は、育成系統の中では「SM-03」が2,833kg/10aで最も多く、「美笹」とほぼ同程度で、次いで「MD0305」、「MA0301」の順でした（図1）。

(4) 果梗の小包発生率は、3系統とも調査期間を通して「美笹」より低く推移しました。

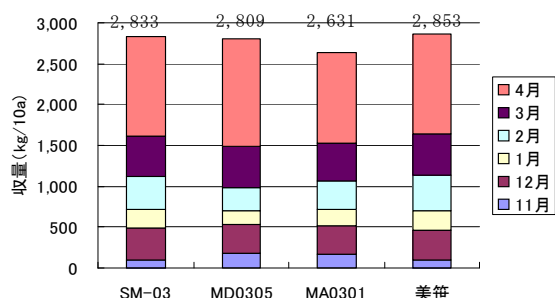


図1 秋まきハウス冬春どり作型での供試系統の時期別収量

年内は「MA0301」が最も低く、次いで「SM-03」が低くなりました。年明け以降は、「SM-03」および「MA0301」が同程度の低さで推移しました（図2、写真1）。

4. おわりに

以上の結果、収穫始めが早く、収量が「美笹」とほぼ同程度で、果梗の小包発生率が低い「SM-03」が、最も有望と思われました。

今年度は、「SM-03」の現地試作を実施しており、さらに現地への普及に向けて取り組みます。

（育種部 紺谷 均）

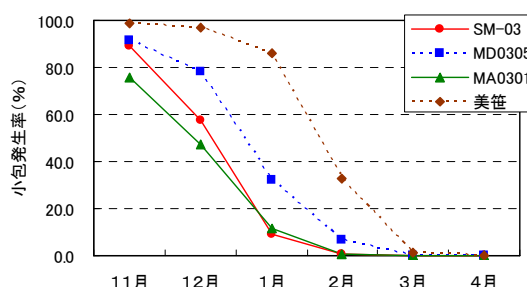


図2 秋まきハウス冬春どり作型での供試系統の果梗の小包発生率



写真1 「SM-03」(左)と「美笹」(右)

和歌山県農林水産総合技術センター
暖地園芸センターニュース No. 36

平成22年1月発行

編集・発行 和歌山県農林水産総合技術センター
暖地園芸センター

〒644-0024 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋724

TEL 0738-23-4005

FAX 0738-22-6903

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/gaiyou/003/003.htm>
印刷所